

4―60―0

(包紙)

「大九右衛門様 田曾兵衛

御用書付

封」

4―60―1

尚々申候此書状式通

黒田屋岩惣へ早々

御座させ可被下候、少々用足

被申遣候間別而く

奉願候以上

以別紙得御意候段々

御趣向之義被仰下一々

拝見承知仕候、至極宜

可有御座候、日野郡

はしめ御両国鉄之義

前々より御評儀有之

義ニて御座候、此節町

方よりも相願候もの共

兩人御座候、是茂前後

合点之不参趣ニ付不被

仰付候とふそ貴様之

御手前へ被仰付候得者

万々和合之様子ニ被存

御ベり合ニ可相成与被存候

猶又御考合被成御仕法

詳ニ御書付置可被成候

様々御尋之義共御座候節

御不案内御座候而ハ差

懸り不都合相成り申候

急々可申談も出来之

御座候内々相成候へ者御出府

夫より再談いたし可申候

披懸御心頭結構なる

壺包并本庄海老

壺御包被掛御意忝早々

一

致賞翫候て蘭之義ハ
老之たのしみ永く秘
藏いたし度御座候、木村へも
被進候由第一番之望^{ニ而}
御座候、無久方大歛至極
兼御心付於私も快御座候
私迄御礼之義被申越候間
左様ニ御承知可被下候、何角
次兵衛へ御聞可被下候、くれぐ
ニ入御念候義山々忝仕合
奉存候、追々以書中可
得御意候、其表相替候事も
以来候ハ、御内々早々御申
越可被成候、已上

田中

七月五日

大谷様